

令和 8 年度
合否判定の方法及び基準
【看護学部看護学科】

対象入試制度

令和 8 年度総合型選抜入学試験

1. 試験内容

一次審査：「書類選考」

出願書類をもとに、看護学部看護学科で定める基準に従い総合的に評価し、選考を行う。

二次審査：

「小論文」：800字以上1000字以内で出題されたテーマについて論述してもらった。（60分の試験時間）

「口頭試問」：約 20 分の集団面接方式で、アドミッションポリシーに沿った設問に対し、自分の考えを自分の言葉で述べてもらった。

2. 合否判定の方法と基準

一次審査：提出書類、志望理由書の内容から、総合的に判断した。

二次審査：一時審査で提出された書類、志望理由書、小論文、口頭試問の内容から、総合的に判断した。

本学部のアドミッションポリシーに沿って、次のような人物像に合致しているかどうかという点を中心に評価した。

- ・ 命の尊厳と価値を大切に思い、人に対する思いやりと敬意をもって信頼関係を創ることができるか
- ・ 保健・医療・福祉の分野に関心をもち、看護学についてさらに深く追求する意欲があるか
- ・ 看護学の課程を学ぶために十分な基礎学力と継続的学修姿勢を備えているか
- ・ 謙虚に学ぶ姿勢を有し、探究心と創造性をもって自ら課題を発見し解決していく意欲にあふれているか
- ・ 多様な価値や文化を理解し、保健・医療・福祉を通じて持続可能な社会の発展に貢献する意欲はあるか

令和8年度 近畿大学 看護学部 看護学科 総合型選抜 小論文

【小論文問題】

以下のテーマについて自らの考えを800文字以上1000文字以内に論述しなさい

新型コロナウイルス感染症の流行時には、限られた人工呼吸器や防護具などの医療器材をどう分配するか、また誰を優先的に治療すべきかなどといった難しい判断に迫られ、迷いが生じる場面がありました。このような状況に直面したとき、看護職はどのように考え、行動するべきであると、あなたは考えますか。

【本入学試験の目的】

看護学部では、以下のような資質を備えた人物を求めた。

- ①命の尊厳と価値を大切に思い、人に対する思いやりと敬意をもって信頼関係を創ることのできる人
- ②保健・医療・福祉の分野に関心をもち、看護学についてさらに深く追究する意欲のある人
- ③看護学の課程を学ぶために十分な基礎学力と継続的学修姿勢を備える人
- ④謙虚に学ぶ姿勢を有し、探究心と創造性をもって自ら課題を発見し解決していく意欲にあふれる人
- ⑤多様な価値や文化を理解し、保健・医療・福祉を通じて持続可能な社会の発展に貢献する意欲のある人

【出題の趣旨】

上記の資質を総合的に評価できるよう「保健・医療・福祉」に関連し、「命の尊厳」「多様な価値観、文化」等を問い、かつ小論文の内容、構成等から論理的な思考、課題形成力、課題解決能力等を評価しうるテーマとした。

【解答例】

新型コロナウイルスの流行時には、医療資源が不足し、誰を優先して治療するかを決めなければならない場面があったとニュースで知った。そのようなときに必要なのは、できるだけ多くの人を助けるための冷静な判断だと思う。例えば、治る見込みの高い人を優先すれば、助かる人の数を増やすことができる。これは社会全体にとって大切な考え方であり、限られた資源を生かすために欠かせない視点だと感じる。

しかし、それだけでは人としての思いを十分に守ることはできない。たとえ助かる可能性が低くても「最後まで治療を受けたい」と願う人や、その家族の気持ちは決して軽く扱うべきではない。また、年齢や立場によって命の重さが変わることはない。全体を優先する考えと、一人ひとりの思いを大切にすることは、ときにぶつかってしまう。

私は高校で、文化祭の準備のときに使える教室が足りず、どの団体が利用するかで意見が割れた経験がある。自分のクラスを優先したい気持ちは強かったが、他の団体も同じように真剣だった。最終的には「誰にとって一番必要か」を基準にし、準備の進み具合や内容を考えながら話し合いを重ねた。その結果、全員が納得できる形で教室を分け合うことができた。この経験から、難しい課題に直面したときこそ話し合いが大切であり、相手の立場に立って考えることの大切さを学んだ。

医療の現場でも同じように、公平な判断をしなければならないことがある。そのときには、科学的な根拠をもとに患者や家族、医療者が一緒に話し合うことが必要だと思う。話し合う過程そのものが公平さを生み、結果的に治療を受けられなかった人の思いを尊重することにもつながる。特に看護職は患者に一番近い存在だからこそ、その人の生活や気持ちを理解し、話し合いに反映できる役割を果たせると考える。

このように、医療資源の分配など厳しい場面でも、看護職は一人ひとりの命を大切にし、守る努力を続ける必要がある。そして患者や家族に寄り添いながら仲間と協力し、最善の方法を考える姿勢が求められる。私は大学で看護学を学び、科学的な根拠と人への思いやりを持った看護職を目指し、社会に貢献したいと考えている。